

野村：僕が聞きたいのはね、その打ち合わせした業者でも、結局ね。打ち合わせをした業者の一つはね、採用になった。大金のね。大きな金額の契約を取ったんですよ。これですよ。その妥当性を示すところが真っ黒けなんで、それが本当に適切なかどうかは、僕は判断することはできない、けどね。でも結局その会社は取ったんですよ。その1社は。それは単なる雑談レベルではなくてね、当然、その契約に至るまでのね、もっと濃厚な話が行われたと推測することが、当然であって、それを残さなかった適切なんではないでしょうか？

推測は、野村さんの勝手な話しであって、私、何度も言うように、単なる情報収集であって、特段、残す必要はない、ということは、もう何か言っても、もうきりがないですけども、そういうことです。

野村：でもね、3社の中から発注する業者を決めるうえでね、ことになったわけじゃないですか。多分、その段階でも、多分、内心ね、当然、その計画はあったと思いますよ。「キリがないから、その中で決めようかな」っていう。

小林：会社を絞るための情報等は収集してますよ。間違いなく。うちの方の要望もありますし、そん中で情報収集ということで、その3社と話しはしてます。同じです。

野村：この辺はごめんなさい。僕は中でそこでね、そこで内密にね、さっき言ってるみたいね、「お前んとこにやるから」って、そういう話が行われたと思ってないんですよ。思っていないしね、そもそもね、何度も言ってる通り、公正明大が全ていいわけじゃなくて、ある程度裁量でね、この程度だったら、自分たちで決めてしまってね、体裁を取り繕って、それで良しとしてしまおう、でもいいと思ってるんですよ。そんないちいち細かいとキリがないから。このぐらいね、これで大丈夫だと。

ただそれはね、後から見られてね、「本当にフェアにやってるな」っていう風になっていけばね、それでいいんですよ。ただね、僕はね、何度も言ってる通り、ホームページが出来ました、と言ってね、僕にとっては、「なんでこんなこともやらないの？」ということをやっている、そこで疑いを持ったわけですよ。それでね、請求してみたらね、真っ黒けなわけですよ。ここでちゃんと数字が入ってね、この3社のものが出てね、ふたこと返事でちゃんと出てね。

そこでね、こういう理由で決まったんだな、というのがね、明らかになれば、僕はそれでいいんですよ。ただね、それなのに、しつこく言わないと出さない、出たら真っ黒け。何か、記録が残らないところでね、頑張って、少しでも出す文書を、減らそう、減らそう、と頑張られる。

告176-9
(告176-5の反訳)

ね。そしたらね、僕だってちょっと疑いますよ。情報公開って、そういうものでね、あなた方がね、僕は何か悪いことしているとは、思いたくないですよ。やってないと思いますよ。ほとんど、全てゼロじゃないかもしれませんがね。ただそれはね、信じさせたいのであれば、させたいのであればね、まずこのディスクロージャーをしないと駄目なんです。だから、それは蘭越町の条例に書いてある、書いてある通りね、「町政の諸活動について説明する責任を果たすことにより、町政に対する信頼と理解を得ることができる」なんです。ここで真っ黒けだとか、出さないとかね、それを出さない理由もね、しつこく聞くまではっきりさせようとしな、という風にとられたらね、信頼なんか得られませんよ。そのことを僕は言ってるんですよ。